

# 仏事はお祝い事？ それとも不幸事？

先日、和菓子屋さんへ伺った際に質問がありました。「法事のお供え物は、どういう包装が正解ですか？」お供え物を包装することが多いそうで、お客さんにもよく聞かれるのだそうです。

浄土真宗の仏事は、「故人を縁として、生きている私たちが仏法に会わせていただく機会である」と言われます。お通夜やお葬式も同じです。そのような尊い縁は、何回あっても良いのですが、だからと言ってお葬式にお祝い事の包装をしたお供えを持っていく訳にはいきません。また、年忌法要などのお供えに、結び切りの水引きをつけて行く、僧侶の私から見れば、もう二度と仏法に会う機会はいらないと言っているように思います。ここで大切なことは、一般常識を心得ながら、同時に浄土真宗独特の考え方も知っておくことだと思います。

一般的に仏事は故人の供養の為に行われますが、浄土真宗では、私自身の為に行われます。この世を生きる私の幸せが故人の願いであると説かれているからです。故人を偲ぶ気持ちがあるまま私の幸せにつながっているのです。ですから法事は「お祝い事」でも「不幸事」でもなく、故人からいただいた「尊い縁」と言えましょう。

とはいえ、みなさんが知りたいのは世間一般のことだと思いますので、次項に記しました。ご参考になさってください。

# お供えを持っていく ときのマナー(世間一般版)

法事にお供えを持っていくときは掛紙をつけて包装しなくてはなりません。(基本は外掛け。郵送する場合は内掛け。)四十九日までは黒と白の水引がプリントされているものを、四十九日以降は双銀の結び切りの水引がプリントされたものを使います。地域によっては黄色と白の水引のプリントされたものを使うところもあります。ちなみに、慰斗(のし)は神事に用いられるものですので、慰斗(のし)の付いていない掛紙を使いましょう。表書きは「御供」とします。

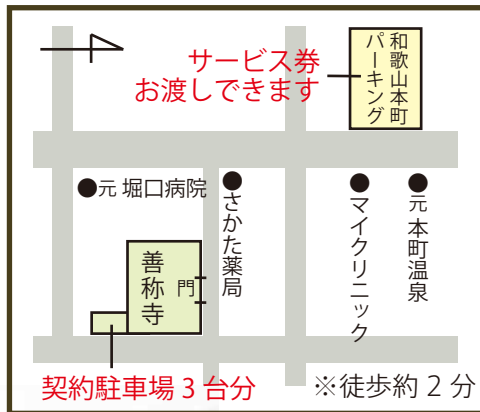
また、マナーとしておき出しで持っていくのはスマートでないで、できれば風呂敷を利用すると良いでしょう。ない場合はお店で紙袋に入れてもらい、こちらも法事用のものがあればそちらに入れてもらいます。

瘦し方については、いきなりお仏壇にお供えするのはマナー違反となります。まずは施主の方に瘦すようにします。瘦す際には施主の方に「御仏前にお供えください」と一言添えて瘦すとスマートです。

お供物料として現金を包む場合は表書きは「御供」や「御仏前」とします。四十九日前でも同じです。水引は結び切りのものを使用します。お金の袋は上包み、上側を下側にかぶせるようにします。名前はフルネームで黒の筆ペンなどで記載します。

# 駐車場の ご案内

お寺の裏側に3台分の駐車場を借りている他、近くのコインパーキングも契約しています。(徒歩2分)1時間半までの無料チケットをお寺にご用意していますので、ぜひご利用ください。チケットは出庫の際に必要です。自由に入庫していただき、お帰りの際にお寺にお声がけください。



**自転車・バイクの方**  
なるべく、境内ではなく門の外側へお停めください。砂利の上に停めると不安定で万が一倒れたら危険です。



和歌山本町パーキング  
マイクリニック様の  
向かい側です



いつも境内の清掃を手伝ってくれている的場さんが、山で摘んでくれました。素朴な甘味でした。